

## 持続可能な開発目標（SDGs）推進本部会合（第10回）

### 議事録

令和3年6月22日

官邸 2階大ホール

#### 【内閣官房長官】

ただ今から、持続可能な開発目標推進本部第10回会合を開催いたします。

それでは、議事に入ります。

#### （1）SDGsに関する自発的国家レビュー（VNR）

について、和泉総理補佐官から説明をお願いします。

#### 【和泉補佐官】

「資料1」を御覧ください。2ページ目を御覧ください。日本が国連にSDGsの進捗に関する「自発的国家レビュー（VNR）」を提出するのは、4年ぶり2回目のこととなります。以下、目次に沿って概要を説明します。

3ページ目を御覧ください。第1章は、SDGs推進本部長である総理のメッセージを掲げています。そこには主要な点として、

- SDGs達成のため、日本は多国間主義アプローチを重視していくこと
- ユニバーサル・ヘルス・カバレッジを推進すると共に、グリーン社会の実現やデジタル改革に向けた取組などを進めてきたこと
- 気候変動問題は、待ったなしの課題であり、2030年度において、温室効果ガスを2013年度から46%削減することを目指し、更に、50%の高みに向けた挑戦を続け、2050年には、カーボンニュートラルの実現を目指すこと
- VNRを踏まえ、SDGs達成に向けた取組を加速していくこと

をメッセージとして含んでいます。

4ページ目を御覧ください。

第2章は報告書の要約です。

第3章は報告書の作成方法を記載しています。今回初めてパブリックコメントを実施し、若者を含む幅広い市民の声を取り入れました。

第4章では、なぜ日本がSDGs達成に向けて取り組むのか、コロナ禍からの「よりよい回復」のためにSDGsがいかに重要なのかについて記載しました。

第5章では、SDGs推進体制や普及の動きを説明すると共に、国内の課題や取組、国際協力に関する主な取組を記載しました。

5ページ目を御覧ください。第6章では、各目標の達成状況について、政府による評価と円卓会議民間構成員による評価を併記しています。

政府による評価では、再エネ導入が着実に進展していることや、学習指導要領に持続可能な開発のための教育（ESD）の理念が盛り込まれたことなどの進捗を書くと共に、ジェンダー・ギャップ、新型コロナウイルス感染症拡大の社会の脆弱層への影響など、課題も取り上げています。

円卓会議民間構成員からは、企業経営にSDGsが浸透したこと、2020年初頭からCOVAXなど

を通じたコロナ克服のための国際協調に取り組んだこと、京都Congressを開催して途上国の法制度整備に取り組んでいること等に評価が得られました。一方、子どもの貧困率、ジェンダー・ギャップ等について、厳しい見方もありました。

続いて、6ページ目を御覧ください。今後は、VNR を通じて明らかとなった進捗と課題を踏まえて、取組を加速していくことが重要です。このため、第7章では今後の取組について記載しました。

更に、SDG グローバル指標のデータを別添し、お配りしているとおり、報告書は全体で 260 ページを超えるものとなっております。

#### 【内閣官房長官】

ただいまの説明に関連して、御発言のある出席者の皆様を、順次指名させていただきます。

#### 【茂木外務大臣】

新型コロナの世界的な感染拡大が続く中、SDGs の重要性はこれまで以上に高まっています。今回のレビューは、目標の 2030 年に向け、日本の取組を各国に共有する貴重な機会であります。7月の国連ハイレベル政治フォーラムでは、私から、日本の取組を国際社会にしっかり発信したいと思います。

今後とも、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジやワクチン支援を始め、外務省としても、SDGs の達成に向けた取組を加速してまいります。

#### 【麻生副総理兼財務大臣】

新型コロナからの「より良い回復」に向け、G 7 や G 2 0 等で主導してきたユニバーサル・ヘルス・カバレッジに向けた取組や質の高いインフラ投資等を一層推進していく必要があります。同志国や国際金融機関とも連携しつつ、SDGs 達成に貢献してまいりたいと考えています。

#### 【赤羽国土交通大臣】

国土交通省は、デジタル技術を活用した「スマートシティ」の国内外での推進、「持続可能で強靱なまちづくり」のための防災・減災対策、省エネ住宅の推進等によるカーボンニュートラルの実現への取組等、引き続き幅広い分野で SDGs 達成に貢献してまいります。

#### 【田村厚生労働大臣】

今般のレビューを通じて明らかとなった進捗や課題を踏まえ、SDGs の実現のため、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジや働き方改革、女性活躍等を推進していくとともに、コロナ禍において人々の健康と暮らしを守るために必要な取組を行ってまいります。

#### 【小此木国務大臣】

地球規模の課題である気候変動問題を原因として、近年頻発している大規模災害への対応を推進するとともに、日本の経験を海外と共有し、SDG 1、11、13 達成の取組を継続します。持続可能な海洋のため、カーボンニュートラルの実現を目指し、SDG14 達成の取組を継続します。

#### 【梶山経済産業大臣】

SDGsに資する、カーボンニュートラルの鍵を握る取組として、徹底した省エネ、再エネ等の非化石エネルギーの活用を着実に進めます。グリーン成長戦略や、見直し中のエネルギー基本計画も踏まえ、脱炭素化を通じた経済と環境の好循環を実現していきます。

#### 【上川法務大臣】

本年3月の京都 कांग्रेसでは、法の支配がSDGs達成の礎であることなどを掲げる「京都宣言」が採択されました。2030年に向けて、この京都宣言の実施にリーダーシップを発揮し、誰一人取り残さない、安全・安心な社会の実現に力を尽くします。

#### 【平沢復興大臣】

原子力災害によって甚大な被害を受けた福島において、「創造的復興の中核拠点」としての国際教育研究拠点を新設し、国内外の英知を結集して、日本・世界の共通課題の解決に資するイノベーションの創出を目指してまいります。

#### 【平井国務大臣】

本年9月に設立するデジタル庁においても、グリーン社会の実現やイノベーションの推進にも資する未来志向のDXを進めるとともに、健康・医療、教育、防災などの各分野でのデジタル化も進め、SDGsの達成に貢献できるよう、デジタル改革を推進してまいります。

#### 【井上国務大臣】

先月、国連科学技術フォーラムで、科学技術を活用したSDGsの取組を世界に発信しました。2025年の大阪・関西万博が世界のSDGs、更にはSDGs + beyondに貢献する機会となるようにします。更に、SDGsの目標12「つくる責任・つかう責任」を更に進めるため、食品ロス削減等、消費者の意識・行動変革にも取り組みます。

#### 【岸防衛大臣】

防衛省では、国連PKO部隊派遣国の要員に対する施設・医療分野での能力向上支援の取組に加え、省内に立ち上げた防衛省気候変動タスクフォースにおいて、自衛隊施設における再エネ電気の調達促進を図るなど、SDGsの取組を一層推進してまいります。

#### 【野上農林水産大臣】

農林水産省は、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションや投資を呼び込むことで実現させるため、今年5月「みどりの食料システム戦略」を策定しました。本戦略の推進及び国連食料システムサミット等での発信を通じてSDGs達成に一層貢献してまいります。

#### 【丸川大臣】

あらゆる分野におけるジェンダー平等を実現すべく、基本計画や先般策定した重点方針に基づく取組

を強力に推進しています。また、東京大会では、リサイクルメダルや再エネ水素の活用など大会史上初となる様々な取組を実施しています。こうした取組により、SDGs の目標達成により一層貢献してまいります。

#### 【萩生田文部科学大臣】

文部科学省としては、教育、科学技術、スポーツ、文化の取組を通して、SDGs 全体の実現に貢献していきます。特に、教育分野では、先月(5月)、「第2期 ESD 国内実施計画」が策定されたところであります。関係省庁と連携しながら SDGs 達成のための教育を推進してまいります。

#### 【坂本内閣大臣】

SDGs の普及促進に向け、脱炭素に力点を置いた SDGs 未来都市の選定、官民連携の促進や金融面の取組等を進め、SDGs を原動力とした地方創生を推進します。更に、子供の貧困対策を推進します。また、障害者差別解消法の改正法を基に、社会全体で合理的配慮の提供に係る取組を進めます。

#### 【小泉環境大臣】

前回との最大の違いは脱炭素です。4年前の VNR には脱炭素という言葉は一つもありませんでした。しかし、昨年の菅総理のカーボンニュートラル宣言を受けて、「脱炭素社会への移行」が今回の VNR の主流になっています。2030 年までの SDGs 達成に向け、環境省としても、再エネ最優先の原則で取り組み、少なくとも 100 を超える脱炭素先行地域の創出に全力を尽くします。

#### 【熊田総務副大臣】

総務省は、我が国の SDGs への取組が国際統計の場で比較できるよう、各府省と連携し、指標の整備に取り組んできました。今後、VNR を踏まえ、グローバル指標の更なる整備や代替指標の活用等に取り組んでまいりますので、引き続き、御協力をお願いします。

#### 【内閣官房長官】

私の担当する分野に関して、国際平和協力等でも SDGs に貢献します。

他に御発言がないようでしたら、「SDGs に関する自発的国家レビュー (VNR)」について本推進本部の決定としたいと考えますが、よろしいでしょうか。

#### 【内閣官房長官】

それでは、本件については、本推進本部の決定といたします。

最後に、総理から御発言いただきます。

#### 【内閣総理大臣】

新型コロナウイルスの感染拡大は、世界の人々の命・生活・尊厳など、人間の安全保障に対する脅威となっています。ポストコロナ時代における持続可能な開発目標の達成に向けては、世界が団結して

取り組むとともに、前例に捕らわれない戦略を立て、取組を加速していかなければなりません。

そして、あらゆる分野において革新的なイノベーションを活用し、様々な政策を総動員し、未来を先取りする社会変革に取り組んでいくことが重要であります。

政府としては、引き続き、誰の健康も取り残さないという考えの下に、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジを推進するとともに、グリーン社会の実現やデジタル改革に向けて取り組んでまいります。

特に、気候変動問題は、人類全体で解決を目指すべき待ったなしの問題であります。そのため、気候変動への対応が、日本、そして、世界経済を長期にわたり力強く成長させる原動力になるとの考え方の下に、2050年カーボンニュートラルの実現を目指し、施策を講じていきます。

関係閣僚におかれては、自発的国家レビューに取りまとめたビジョンや取組、課題を踏まえ、あらゆる関係者との協力を深めながら、誰一人取り残されない社会の実現に向けた取組を一層加速していただきますように、お願いいたします。

#### 【内閣官房長官】

それでは、以上をもって、持続可能な開発目標推進本部第10回会合を終了します。